

代村は岩手県沿岸北部の小さな村です。震災では巨大津波が押し寄せましたが、高さ15.5mの東北と称される普代水門が被害を最小限に抑え、津波による犠牲者は1人も出ませんでした。村では明治三陸地震による津波で多くの犠牲者が出たことを踏まえ、同程度の津波から村を守るように水門の設計条件を決め、昭和47年(1972)の着工から12年を経て水門を完成させました。

建設には当時の村長の英断と尽力があります。国や村民からは建設反対の声が上がるなか、根気よく説得を続け実現させたのです。3・11の発災時には遠隔操作によって閉門を行っていましたが停電が発生したため、消防士たちが手動で操作して水門を閉鎖。直後に到達した津波は水門を2mほど超えましたが決壊することなく、津波は水門から数百m上流で止まり、間髪で村を守ったのです。



普代水門と太田名部防潮堤が住宅地や集落中心部への津波到達を防いだため、津波による死者・住宅被害はゼロとなった。その結果から普代水門は「奇跡の水門」ともよばれている



普代水門の建設に尽力した和村幸得元村長(故人)の功績を紹介。戦後の選挙で村長に初当選し、以後10期40年という長きにわたり普代村のトップとして村の発展に貢献した。まさに震災から村を救った人物だ



元村長の先見の明に村民一同心から感謝の意を表し、「二度あったことは、三度あってはならない」という村長の教訓を風化させず、後世まで受け継ぐことを誓い、平成25年(2013)にその言葉を刻んだ顕彰碑が建立された

## ●ふだいむら 普代村

### ●ふだいすいもん 普代水門

間一髪！村を守った奇跡の水門



最大震度 5強

浸水面積 1km<sup>2</sup>

最大浸水深 22.17m



全壊

半壊

一部損壊



死者

行方不明者

1人

負傷者

4人

※被害状況のデータについては、注釈がないものはP.1下段に記載の資料に準拠  
※空欄または「不明」としているものは準拠資料の通りに掲載

普代村の被害状況

### その他

(水門)

#### 施設ガイド

※要予約

#### 施設DATA

●ふだいすいもん

### 普代水門

☎ 0194-35-2114(普代村政策推進室) MAP P112E2

④ 普代村第14地割

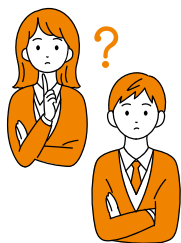
④ 三陸沿岸道路普代ICから車で2分

👁️ 見学自由

🚌 あり(大型バス:あり)

### ? ? 考えてみよう

Q1 国や住民の反対を押し切り、説得して水門建設を実現させた和村幸得元村長。その強い思いはどこからきていたのでしょうか?



A1 元村長自身が昭和8年(1933)の三陸地震で大規模な津波を経験していた。「二度あったことは、三度あってはならない」と反対の声を説得し、建設を実現させた。